



和太鼓
&
なまはげ

日本女性会議 2016 in 秋田

平成 28 年 10 月 28 日～10 月 30 日

みつめて みとめて あなたと私
～多様性（ダイバーシティ）とは～



重要無形
民族文化財
竿燈（大若）

分科会 地域づくり

“地域消滅”のトップランナー
秋田の「今」と「これから」
～そもそも男女共同参画って何？～

＜秋田の現状＞

- ①全国の中でも、人口減少、高齢化、少子化が特に進んでいる
- ②若い女性の流出により、海外から嫁いでくる女性が多い

＜見えてくる課題＞

- ①潜在的に人の意識に刷り込まれている男尊女卑の傾向が強い
- ②実力が認められず、活躍できる環境がないため、関東圏や海外に出ていく女性が多い

＜これからの地域づくり＞

- ①一般的な立場や考え方・概念を固定化しない
- ②思い込みや限界を決めつけず、男女が共に支えあい、自分らしく生きられる環境をつくる

分科会に参加して

日本女性会議は1984年に第1回が名古屋で開催され、秋田が33回目。女性が活躍することで、男性社会や地域・国が変わると思った。(S・M)

基調報告



内閣府男女
共同参画局長
武川恵子氏

「男女共同参画施策の現状と
今後の課題について」

＜現状＞

- ①日本のジェンダーギャップ指数(※)→世界144カ国中111位
(経済参画：118位、政治参画：103位)
- ②性別による役割分担意識が根強い
- ③女性の社会進出が遅れている

＜課題＞

- ①個人のキャリアを途絶えさせず、個性や能力が発揮できる職場や社会の環境づくり

※ジェンダーギャップ指数

世界経済フォーラムが、各国における経済、教育、政治、保健の4分野のデータから分析した男女格差を示す指標



エクスカーショ

「劇団わらび座」鑑賞

「ハルららん♪和崎ハルでございます」

秋田初の女性代議士「和崎ハル」を題材にミュージカル化。辛い境遇の女性を助けるため、人権や公娼廃止・解放運動を行った。根っからのお節介と陽気でたくましいその考え方や行動力に元気と勇気を貰いました。

シンポジウム

【シンポジスト】

秋山正子氏
菊池まゆみ氏
安藤大輔氏



秋田発

「ケアリング（気遣いあう）
社会をめざして」
～生活の場から
「多様性」を考えよう～

＜この町で最後まで暮らすには＞

- ①無い物ねだりはしない
- ②コップ半分の水で持続可能な活動をする地道な努力が必要
- ③町民が、「生涯現役」という考え方や、「偉大なおせっかい」をすることが、自己実現になる。

最後に、秋田の実行委員会委員長の
中村順子氏の大会宣言で幕となった。

分科会 国際社会

～違いを超えて、生き方を
選択できる地域づくり～

＜取り組むべきこと＞

- ①言葉の壁により、孤独になっている人のための日本語教室
- ②すべての人が、自分との違いを受け入れて、一人ひとりを認めあう地域づくり

＜受け入れる気持ち＞

- ①自分たちと同じ、地域の住人として受け入れる環境を作る
- ②お互いの多様性を認め合う

分科会に参加して

中国やフィリピンなどから帰国し始めた孤児や、近年、日本に嫁いできた女性、日本語教室に通いながら、同じ地域で生活する外国人親子のために、様々な支援がなされている。

これからは、相手を理解しようと思いつながり、言葉をきちんと聞き、コミュニケーションを取ることが大切だと思った。(R・O)